

第1回摂津市公民館運営審議会要点録

日時 平成30年11月16日(金)午後2時から

場所 摂津市上下水道部庁舎3階大会議室

出席委員 10名

欠席委員 3名

事務局 10名

案件①事務局より公民館講座について説明

(質疑応答や各委員の意見等)

(委員) 講座のポイントは企画と講師を誰にするかで決まる。本日説明いただいた内容は企画も良かった。

少子高齢化の中で、子供たちが参加できる講座、学校だけではできない講座をやっている。ニーズに合わせて企画することがポイントで、地域のニーズを把握してこれからもやってもらいたい。

また、淀川と歴史についての講座がある。地域と公民館と学校が結びついたもので、教科書には載っていない自分たちの生まれ育った地域のことを知る良いテーマの講座である。

(委員長) 公民館側が用意したものに子どもが参加するのではなく、子どもたちが主体になって企画する点がよかった。

淀川と歴史の講座は平日に実施されたが、土・日曜日に行えば、参加する人も変わり親しみやすい講座になると思う。

(委員) 審議会の資料に、講師の年齢や性別の情報を記載してもらうことはできるのか。講座のイメージがしやすい気がした。

(事務局) 講師の情報も付記するべきかと思うが、性別については色々問題があるので記載はしない。どこから来ているとか、肩書など、書ける部分を記載させていただく。

(委員) 男性と女性の講座に参加する割合を、一年間通してデータを出したらどうか。男性がたくさん参加する講座もあるので、年間計画の立て方も変わってくる。ここ5年間でどのように変わってきたか見れば分かるのではないか。もう一つ、公民館と学校の連携を密にできないか。地域の歴史について学校現場で行うことは可能なのか。

(委員) 地域コーディネーター、民生委員の方のご協力で、小学校3年生が市内の遺跡や施設をまわっている。途中の公民館で話をしてもらおうとか、タイアップできたら充実すると思う。

歴史もですが、理科離れが色々と言われている。その中でも、虫好きな子どもが結構いるので、今回、公民館で実施された昆虫とふれあう講座がもっと開催されれば子どもも楽しいと思う。

(委員) 講師料について、公民館は公的費用で行っているのだから、上限が決まっている。肩書によって違うが、熱意のある人にはもう少し上げられないか。

(事務局) 講師の実績や肩書により相応の金額をお支払いしている。限られた予算の中で効果を発揮できるように、バランスよく回数をこなし、かつ、質の良い講師をお呼びすることができる形で企画している。

(委員) 広報には講師の名前が載らないが、名前を見て参加人数が増えるということがあると思う。昔は載っていたと思うが。

(事務局) 紙面スペースの問題。ホームページには募集記事を載せており、講師の名前や若干のプロフィールを載せている部分はある。

(委員) お年寄りにはホームページを見ない、広報で判断する。

(事務局) 講座案内は各公民館にチラシを置いている。

(委員) 夏の納涼お化け屋敷が楽しそうだ。高校生がシナリオを書き、小中学生が制作する。講師なしで自分たちで行ったことが素晴らしい。次世代に繋がっていく良い企画である。

案件②公民館まつりについて説明

(質疑応答や各委員の意見等)

(委員) 公民館まつりが1日になる方向になるという話がある。鳥飼東公民館でも1日になるという話が出ている。

(事務局) 公民館まつりは、開催実施団体が実行委員会になっているので、実行委員会の判断になる。

(委員) 基本はそうだが、実行委員会が中心になっているのは安威川公民館で、他館は公民館職員がサポートしている。

(委員) 他にイベントがあり、大変なので1日にしたいという話だ。

(委員) 地域によって1日にするか、2日にするかが違う。どこが主体で引っ張っていくのか。

(事務局) 行政や公民館から1日ありきの議論はしていない。登録クラブ・実行委員会の意見を集約した形でやっていく。ただ、高齢化や他のイベントが重なり、動員ができない問題がある。それぞれの公民館・実行員会で話をしてもらえればよいと思う。

(委員) 環境が変わってきているのはわかる。地域ごとに議論し、そういう方向を否定しない前提であって、押しつけではない。

- (事務局) 1日でも2日であっても同様にサポートしていく。
- (委員) 模擬店も縮小傾向にあると思う。ぜんざいをパンの販売にしたり、ジュースは紙コップで販売していたものを、紙パックやペットボトルに変えたりしている。
- (事務局) 一つ目はクラブ員の高齢化や担い手の不足で従事者の負担が大きい。安威川は負担軽減のため内容の変更を行った。二つ目は保健所の指導が厳しく、細かい指示を受ける。行政も関わる以上、受け入れでその範囲内でやれることを各公民館・実行委員会にお願いしている。
- (委員) 縮小というイメージを受けられると流されてしまう。
- (事務局) あくまで現状に合わせた規模のまつりを永く続けていける体制を、各公民館の実行委員会で議論していただいている。
- (委員) 実行委員会の開催案内は公民館側から出している。1回目は公民館側がある程度リードしていかないといけない。その時に議論するのはいい。安威川公民館のように色々な意見が出たとき、次回のまつりをどのようにするか意見がでる。他館ではそういうことはない。
- (事務局) 安威川公民館も実行委員会の立ち上げであるとか、サポートは入っている。
各館のまつりの準備の動きについても、職員ミーティング等で情報共有してる。また、各館へ持ち帰り、実行委員会の場で囑託員が生かしていると考える。
- (委員長) 明らかにとまではいかないが、少しずつ変わってきていると感じる。
- (委員) 地域によって起こる問題はそれぞれ違う。ある程度公民館が主体となっているかも知れないが、注意喚起をしてもらい、そこから地域の方が相談してまつりが成り立っていると思う。
参加人数について、安威川以北の公民館より、以南の公民館がとても多い。
- (事務局) 各館が比較できるように、チケットの売り上げ枚数から類推した形で参加人数に変えている。出入り口でカウンターで数えればもう少し正確に出るが、そこまでできないのでざっくりした数字となる。
- (委員長) まつりの開催日程や運営について多く意見がでたので、今度の検討課題にしていただきたい。
- (委員) 事務局に対してではないが、例えば、学校の土日参観、地区体育祭など行事が重なる。しかし、自治会の方などの参加メンバーは一緒。行事が続くと疲弊感をもたれると思う。そのあたりを調整できるのは教育委員会事務局の方だと思う。
- (事務局) 行事のかぶる問題について、解決策は難しいが、こまめな情報収集を

していきたいと思う。

(事務局) 鳥飼東公民館では公民館まつりの臨時実行委員会を行う。30年度のまつりの報告会の時に、自治会の方から、かなわないかも知れないが、2日間を1日にしてほしいとの提案をいただいた。理由は、次の週に行事があり負担が大きいとのこと。そこで、公民館で活動されている方にアンケートを取った。臨時実行委員会で、アンケート結果をもとに、今後のあり方の話をする。

案件③その他でキッズなかよし発表会について事務局より説明

冒頭に委員長から確認のあった震災の影響について事務局より説明